

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

これまでも3月議会の予算審査の中、あるいは総務文教常任委員会の中でもお話し申し上げてきましたように、まずは内部監査でその辺の事情を周知、それから経理の状況について内部監査をし、またその状況を指定管理者選定委員会、これは外部の委員の皆さんによる委員会でございますが、そちらのほうにその状況を報告し、検証いただく。また、宿泊施設の経営の専門家によります経営分析等も実施する予定であります。そういう中において今、田原議員がおっしゃるようなところも点検してまいりたいと思っております。単純に取引高とかそういうものをもって癒着という言葉に公に使われておりますけれども、そのような状況は何か深い根拠があれば私どももさらに調査を進めていく必要があると思っておりますが、現時点においては内部監査の調査を現在、進めており、まとめている状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

支配人をかばって、これまでの経営のまずさを隠蔽するような資料を作成する、行政のそういった言動には、私、不信感しかありません。おかしいですよ。

一般質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。〔12番 伊藤文博君登壇〕

12番（伊藤文博君）

清政クラブの伊藤文博です。

本日は、我々清政クラブが2月に行った政務活動、先進地視察の結果に基づいて、20年後、30年後を見据えた心と体の健康づくりについてと、若者が集うまちづくり、定住促進事業についての2点について質問いたします。

この2点については、松本市と伊那市の視察後に担当課との勉強会も開いておりますので、きょうの一般質問では、両市の取り組みを紹介しながら糸魚川市の課題を明らかにしていきたいと思っております。今後の取り組みとして一步踏み込んだ姿勢を感じられる答弁を期待しております。

1、20年後、30年後を見据えた心と体の健康づくりについて。

合併当初から「健康づくり」の重要性は、市長自らが唱えてきたところであります。当時から見ると、健康運動教室の充実、はびねすの新設と運営、幼少年に対しては早ね早起きおいしい朝ごはん、じゃれつき遊びやキッズキッチンに代表される食育の推進など、積極的に施策が推進されてき

ました。

一方、課題も明確になってきています。中高年男性の運動習慣の不足のように現在の健康づくりの施策に乗り切れない人たちの生活習慣をどのように改善していくかなどに代表される課題への対応が重要となっています。

次の点について伺います。

- (1) 要介護・寝たきりの人をどう少なくしていくか。
- (2) 孤立した市民が少ない地域社会をどうつくるか。
- (3) 活動的な生活を送る市民をどうふやしていくか。

2、若者が集うまちづくり、定住促進事業について。

地方創生が国策となり、それぞれの自治体が定住人口の拡大に工夫を凝らす、地域間競争が激しい状況になっています。

少子高齢化の進行と人口減少の現状下で、住民サービスの向上により、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現が求められています。

地域経済は経済成長率の低下に伴い縮小傾向にあり、有効求人倍率はやや持ち直しの気配はあるものの厳しい状況が続いています。

そのような中、防災意識の高まり、高度情報化、産業構造の変化、過疎化の進行とコミュニティ機能の脆弱化、財政状況の悪化などに対応した安心安全の住みたいと思えるまちづくりが求められています。

次の点について伺います。

- (1) 地域の魅力アップをどう図るのか。
- (2) 他市町村と差別化を図った独自の支援策を講ずる必要があるが、どのように考え実行していくのか。
- (3) 速効性のある施策も必要だが、広い視野で将来を見据えた戦略的な取り組みが必要となるが、どのように検討し実行していくのか。
- (4) 移住者を受け入れ住み続けていただくためには、自己実現だけではなく、ここでの暮らしへの順応性も求められます。どのようにきめ細かな受け入れ体制を実現していくのか。
- (5) 移住希望者の不安の払拭と、糸魚川市の優れたアピールポイントを生活のあらゆる場面を通じてイメージできるような、視認性と即時性に富んだ効果的な情報発信が求められるが、どのように対応するか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、生涯自立し、元気に過ごすため子供のころから健康な食生活や運動習慣の定着など健康増進に努め持続することが重要であります。今後、ライフステージに応じた事業を展開していきたいと考えております。

2 点目につきましては、孤立した市民をできる限り減少させるため社会的なつながりや地域社会のきずなを充実させ、活発な生涯学習活動の推進に努めてまいります。

3 点目につきましては、若いうちから生きがいや趣味などを通じて仲間づくりを推進し、高齢になっても社会参加の機会や活躍の場が提供できる地域づくりが重要と考えています。

2 番目の 1 点目につきましては、市内にたくさんある地域資源を掘り起こし、磨きをかけ、住民がいきいきと活躍する魅力ある地域づくりを行い、移住・定住先として選ばれるよう魅力アップを進めてまいります。

2 点目につきましては、市内各地域の特色を生かし、地域として必要な人材を確保するためターゲットを絞るなど、特色ある移住・定住策に取り組んでまいります。

3 点目につきましては、市民や地域の各種団体と連携を図り、NPO などの中間支援組織を育成しながら移住・定住が持続的、戦略的に進めていける仕組みづくりを検討してまいります。

4 点目、5 点目につきましては、現在の移住者からアドバイザーになっていただき、募集から移住した後まで、経験も踏まえながらの相談や地域とのかけ橋といたしまして、移住者の気持ちがわかる相談体制にしております。

また、移住後、トラブルにならないように地域のルールなどの情報も移住ガイドブックにまとめ、移住希望者に配付いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますのでよろしくご願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12 番（伊藤文博君）

健康づくりの最初の質問の 3 つの項目は、松本市で健康な地域の具体的な姿として示された 3 点であります。この姿を実現するための健康施策という観点で再質問をしていきますので、よろしくご願ひいたします。

松本市では、松本ヘルスバレー構想という取り組みで健康寿命延伸都市を宣言し、上記の 3 つの課題に取り組んでいます。松本ヘルスバレー構想は、グランドデザインであります。それを実現するための方策として、それぞれの施策が講じられています。早くから健康づくりに取り組んできた積み重ねの結果、松本ヘルスバレー構想に行きつき、グランドデザインを示すことができたのではないかと考えています。

一方、健康いといがわ 21 を読みますと、そのグランドデザインと印象づけられる部分が見受けられないんですね。これをどのように考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

糸魚川市におきましては、健康いといがわ 21 第 2 次を昨年度策定いたしまして、グランドデザ

インとは言えないかもしれませんが、全体の構想として健康寿命の延伸を基本方針に、連携、協働をキーワードにした地域社会が連携して行う健康づくりを目指し、重点推進項目の設定及び分野別の目標を定めて推進することとしております。健康づくりにつきましては、担当部署だけではできませんので、庁内の関係部署皆一緒になって取り組みをしたいと考えております。

いただきました資料の松本市は、信州大学や松本大学と連携しながら企業が市民ニーズに対応した研究・開発をし、それを市民が使って情報データを、協力しまして行政が健康づくり、健康投資の推進や企業誘致、雇用の創出を推進するという、3者が共通の価値を目指した取り組みをしております。健康づくりを産業面で支えるという、まさに戦略的な方法をとっております。当市において松本市のような取り組みをするには、資源の問題などで難しいところはございますが、市民の健康寿命の延伸という目標は同じですので、先進的に取り組んでいる事業を参考にしながら取り組みを進めることから実施したいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

勉強会をして、最初から全部手のうちさらしてしますので質問はしにくいところもあるんですけど、大分もう先までお答えいただいたような形ですが、きょうは最初に言ったように勉強会も開いて、そして先進市のよい事例をお互いに勉強したわけですから、糸魚川市のこれからの課題を見つけていきたいところであります。今の課長の答弁もそういう方向だったと思います。

健康いといがわ21には、食育推進計画が包括されましたね。4ページにコンパクトにまとめられました。キッズ・キッチンに係る記述が見当たらない。どこまで書くかという問題が常にあるんですが、もとの食育推進計画には、具体的取り組みの中の幼稚園・保育園における食育の推進、食育体験活動の充実というところに親子食育活動（キッズ・キッチンの実施）が明記されていました。その推進計画が策定された平成21年当時よりキッズ・キッチン、ジュニア・キッチンは、糸魚川市の目玉政策の1つに成長していると言っているんじゃないかと思います。庁内連携も先ほど十分に行ってということでしたが、それを行ってこの計画を策定したのであるとすれば、掲載されていてしかるべきではないかなというふうに考えるんです。私いつも言うように総合計画であっても、随時、改訂版を出していくようなフレキシブルな対応が必要だということが言えるわけですが、そういうことも含めて、今後、考えていくべきではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

キッズ・キッチンやジュニア・キッチンは、調理体験を学び食育を推進する上では、非常に効果のある事業です。園や学校と連携して推進しておりまして、学校や園からも要望がふえてきております。今回の第2次健康いといがわ21の本文には、確かに具体的な事業についての記載ではなく、

各種健康教室ですとか、園・学校との連携という形で表現しております。健康いといがわ21の資料編のライフステージ一覧には、各事業名を明記するスタイルをとっております、そこにはキッズ・キッチンやジュニア・キッチンを記載しておりますが、また関連計画の第3次親子保健計画の中では、具体的な取り組みで記載しております。今後は、関連計画との整合性を見ながらご提言の内容については、改定の際に参考にいたします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

これ非常に大事な冊子だと思うんですよ。その中にやはりわかりやすく特徴的な取り組みを具体的に書き入れて、全ては書けないですよ、だけどやっぱりそれ大事なことじゃないですかね。

先日、ちょっと蒸し返して悪いですが、総合計画のときに実質公債費比率の3年平均で書かんでもいいなんて話もありましたけど、やはりわかりやすい記述をしていくということが非常に大事なことだというふうに思うんです。これは誰向けにつくっているのかと。行政マンが見るためにつくっているのであれば専門用語だけ羅列しとけばいいと思うんです。そうではないでしょ。やっぱり地域社会と親や子供たちと一緒にやってく話だし、高齢者も含めてです。そういう面で作り込み方というのをやっぱりもう一工夫しなければいけない。確かに総務文教常任委員会でもこの話がありました。ただ、その後、松本へ行ってきてみて、やはりその辺が非常に課題であるなど考えてるんですが、全体的にいかがでしょうか。本音で答えてもらいたいですね。余り形式的な答えは望みませんのでお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

先ほど資料編に事業名を一覧でということと具体的な事業名が載ってるわけなんですけど、議員おっしゃるとおり、確かに本文の中にそういった事業名がないと一般の方が見てもわかりづらいということがございますので、わかりやすい形にしていきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

次の定住・移住とも関連してきますけど、糸魚川市がどういう施策で市民のためのよい方策を講じてるのかということをお願いするための大事な資料だと思います。健康いといがわ21読んできると、糸魚川市の施策は国民健康保険加入者のみを視野に入れてるんじゃないかなというふうに感じるんですよ。例えば、ちょっと名前出して悪いんですけど教育委員会事務局は、ゼロ歳から

18歳と言いながら中学校までの限定した考え方をする癖がついてる。習慣的になってる。それと同じように健康増進課は、保険者として国民健康保険加入者のみを対象に考えがちな気がする。全部そうだというふうに断定する気はないですよ。だけど傾向としてそういう傾向があると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

確かに特定健診のデータとか保険者であります、そういった健診のデータを用いて検討はしておりますが、例えばがん検診とか、あといろんなほかの検診、健康相談、健康教育は、全ての市民の方を対象にしております。今回の健康いといがわ21の大きなところでありますのは、やはり連携をしながら進めるということが大きな事業の目玉になっておりまして、特に若い方の健康づくりが重要だというあたりでは、ぜひ職域と連携しながら取り組みをしたいと考えております。職域となりますと保険者も、もちろん国民健康保険じゃない方のほうが多いわけですので、そういった方たちも対象にぜひとも進めていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

考え方として、当然それがなければならぬですが、施策としてそれが行われていくかということが今度大事になってくわけですね。国民健康保険加入者以外どうでもいいんかと言われりゃ、絶対いいとは言いませんよ。だけど実際には、先ほど言ったように保険者としての考え方に左右されている部分が多い。

松本市の政策では、企業との関連を大きく2つ考えてるんですね。1つ目は、健康産業への企業参入。2つ目は、健康経営としての企業での健康づくり。これを松本市が、先ほど課長が答弁されたように企業と連携して進めているわけです。社会保険や企業の保険に加入する人たちも、その人たちに対する働きかけも十分に行われているということなんです。この辺は、松本市の例はもうご存じでしょうから糸魚川市と比較して、糸魚川市の課題をどう捉えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、企業との連携というのは非常に重要だと考えております。今年度につきましても新たにピロリ菌の検査というのを開始したんですけれども、これもやはり多くの方に受診していただくためには、企業の健診と一緒に同時実施しないと受けていただけないということで、

商工会議所、商工会を通しまして企業の皆様に通知を差し上げまして、職場健診と同時で実施できるような形で取り組みをしております。

また、市の健診を職場の健診とセットで実施できるように健診機関とも連携を図りながら進めております。

また、健康情報の提供ということで、今年度、元氣いき健康企業ということで、これは当初よりメンタルヘルスの関係では、企業にはお願いしていたんですけども、生活習慣病予防ということで今年度から新たに企業に出向いて健康情報、健康教育、健康相談を含めて実施したいと考えております。企業との連携は、若いときからの健康づくりに非常に有効だと考えておりますし、また、企業におかれましては、健康経営という考え方についても非常に重要なことと考えておりますので、今後、かかわりを持つ中でそのあたりも企業と一緒に実践につなげていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

それでは、松本ヘルスバレー構想というところに入ります。

平成20年6月、健康寿命延伸都市構想を表明、地域としての産業ビジョンの策定をしております。松本市長は、長生きしても生活の質が低ければ幸せではないと言ってます。23年4月、松本地域健康産業推進協議会を設置、その11月には第1回の世界健康首都会議というのを松本市で開いております。その3年後、26年10月には、その松本地域健康産業推進協議会が松本ヘルスラボを設立。新たなヘルスケアビジネスの実証の場として、また健康意識の醸成とテストヘッドによる実用化検証を行っている。27年の3月には、松本市健康経営研究会、今の企業とのつながりですね、これを設立し、中小企業従業員の健康意識の醸成と新しい需要の創出ということで取り組んでいます。

松本市の健康の取り組みは、日本経済新聞では「街を歩けば健康に当たる」というふうに表現をされているぐらいであります。松本市のヘルスバレー構想では、共通価値の創造を目指し、社会的問題の解決と経済的利益に分けて、課題を明らかにして健康で活力のある市民が自立して暮らすことと、健康産業の振興を両立させるとともに、さらに健康医療にかかわる人をふやす。健康医療にかかわる情報や投資機会をふやす。地域経済に好循環を創出して、総合的なまちづくりを目指しています。企業、市民、行政の共通価値の創造ということですが、非常に大きな取り組みだと思えますが、糸魚川市の課題がここから見えてくると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

糸魚川市の今回の新しい健康計画の取り組みの中でも連携が重視しておりますが、松本市のほうでは、企業等も含んだ中で、また大きいスタンスでの連携が既に実践されているという中で、糸魚

川市につきましては、企業連携につきましては、これからより強化していくような形ですので、その辺につきましては、今後、そういうのを参考にしながら進めていかなきゃいけないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今の現状がいいとか悪いとかそういう話は抜きにして、課題を見つけていきたいという話ですので、その姿勢でいきたいと思います。

松本ヘルスバレー構想の成立要件、活性化要件として地域リーダーの明確なビジョン、市長の強いリーダーシップというのを挙げています。糸魚川市で市長が早くから健康づくりの重要性を主張してきていますが、市長が思い描いている健康づくりが達成できているかという状況の中で、そういうことを判断基準として、今、これから先の課題というものをどう捉えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私といたしましては、本当にまだ道半ばなんていうものじゃなくて、なかなかスタートできないもどかしさを感じている部分もございます。もっともっとやはり高齢化が進むということは、非常に健康寿命の中で長生きしていただきたいわけでありますので、そういったところにつながっていくように持っていきたいと考えておるんですが、なかなかその辺はやはり今、松本、その先進地をお聞きする中で、そういったものの情報を早く収集しながら自分の糸魚川市にもいいものは取り込んでいきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

松本市の市長さん、お医者さんなんですね。だから、その点やっぱり専門家というところがありますが、いいものは取り入れていただくという方向でお願いします。市長の思い描いている姿になってないとするば、市長の主張がもっと弱いのか、もしくは部下が動かないのかどっちかということですので、また、同じく成立要件、活性化要因として、地域独自の資源、これは豊富な医療資源と健康意識の高い市民というのを挙げてるんですね。この点では、糸魚川市の現状と課題、どう捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

これにつきましては、特に市民の健康意識、医療への意識につきましては、先ほど田原議員の質問にもございましたように、やはり共有面というのがまだこれから、弱いのかなと思っております。やはり健康に対する関心意識を高めていくことが必要だというふうに考えております。

医療資源につきましては、松本市につきましては、松本大学に医学部があるということで医師数等が長野県の中でも高いところがございますし、それにつきましては、糸魚川市につきましては、医療資源については大変厳しい現状がございますが、逆に違うような自然環境などほかにまた糸魚川にいい面もあると思っておりますので、それらを生かしながら取り組む必要があるというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今の答弁は、豊富な医療資源、健康意識ともに課題があるということですね。課題をしっかりと捉えて計画を練り直していく必要があるということであります。

同じく成立要件、活性化要因として、これちょっと議長に叱られるかもしれない、片仮名なんですけど、ユーザーオリエンテッドイノベーションの場とって、これは松本ヘルスラボの存在を挙げています。ユーザーオリエンテッドイノベーションで辞書とかで引いても余り出てこないんですけど、ユーザー嗜好の新製品の開発や新市場、新資源の開拓ということみたいですね。糸魚川市の健康づくりで、こんなような場があるかということですよ。ユーザー嗜好の新製品というのは健康にかかわるですよ、新製品の開発や新市場、新資源の開拓というところが、そういう場があるかどうか。ないとしたらどうするかですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

松本市のように企業と連携して市民の皆様のデータ化する資源、そういったものは糸魚川市にはちょっとないと、今、考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今、ないですよ。今後、どういうふうに検討していくかというところですね。課題は、ない。ないのは現状ですから、課題と対応どうしますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

市内にあります企業ですとか、あるいは産業の皆様働きかけをしまして、また市からもそういった形で何か提言をしたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

続きのようなことになるんですが、同じく成立要件、活性化要因として、革新的な企業群と言っているんですね。これはエプソンなどの企業を挙げているんですけど、これ市内企業だけじゃないんですね。全国的な企業も合わせて協力体制をとっていくということなんですが、企業との連携をしっかりと考えていかなければいけないということになると思います。これは先ほど答弁いただいたので、次、行きます。

同じく成立要件、活性化要因として産学官及び関係機関の実践的な結合として、松本地域健康産業推進協議会、信州大学医学部中心のさまざまな支援機関、それから医師会、歯科医師会、薬剤師会の3つで三師会と言うんだそうですけど、三師会の協力体制を挙げています。糸魚川市の現状と課題はいかがか。要するに関連機関の実践的な結合という意味ですね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

糸魚川市内につきましては、当然、医師会、糸魚川総合病院等の連携はとっておりますし、あと大学関係につきましては、新潟大学、富山大学、県立看護大学等の連携はとっておりますが、やはり弱いのは、今、産の部分だと思って、企業との連携が課題だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

課題を見つけることをきょうのテーマとしてますが、課題を見つけたら対応してくださいね。ここで言ってもらって、それで終わりじゃ困るんで。

次に、同じく松本ヘルスパレー構想の活性化を促す4つの要因として、市民、企業、行政、関連機関の学習機会の存在というのを挙げてるんですね。市民、企業、行政、関連機関が一緒になって学習していく機会、糸魚川市でどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

今、糸魚川市内では、非常に高血圧の有所見者が高いということがございまして、保健所を中心に糸魚川市も入りまして企業の方、あるいは市民の方も交えまして血圧を下げるための対策というのを考えております。

また、こういったものを広げていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

例えば介護の現場だとご本人、それから介護施設の方、そして行政側の人間、なかなか意識が共有できない。やっぱりそういう勉強会の機会というのは非常に重要であるという話を総合計画にちょっとさせてもらいましたけど、やっぱり健康づくりも一緒だと思うんですね。今、言うような協力した取り組みというのと学習の場というのは、またちょっと違うと思うんです、学習機会というのは、やはり視点をちょっと改めて対応してもらいたいと思います。

同じく活性化を促す要因の2点目として、市民との共創、共同してつくるという共創によるイノベーション推進として、松本地域健康産業推進協議会の分科会や松本ヘルスラボのワークショップによる実証化検証、実用化検証。要するに企業が考えたいろいろな健康商品を実際に使えるかどうか、使いやすいかどうかというようなことをやっていくという、これも当然これからの検討課題だと思います。

それから、3点目に行きます。

場と、さっき挙げた場ですね。場とネットワークの重層的な構造として、協議会プラットフォーム、松本ヘルスラボ、世界健康首都会議等は、情報交流の場である。そういう機会がたくさんあるということですね。

それから、これはちょっと難しい言葉ですが、暗黙知による革新と生産性向上をもたらす場であるとしています。これちょっと哲学的な言葉なんですけど、よくまあ市の施策でこんな言葉使ったなと思うんですけど、暗黙知とは簡単に言うと暗黙に知ることということですね。知識の前段として認識するというような意味のようですから、それによって革新と生産性向上をもたらす場であるというふうに言ってるんですね。非常に分析をしながら、そして、施策を講じているという姿が見えます。

活性化を促す要件の4点目として、地域の主体的な戦略として、地域が産業を育てるという認識で、まさにボトムアップ型の地域活性化策をしている。このことが結果として、ここがすごいんですけど、経済産業省の健康寿命延伸産業創出推進事業を生むきっかけとなった。松本市がきっかけとなって経済産業省の政策を生むことになる、事業を生むことになった。地方から国の政策に影響を与え、従来トップダウン方式とは逆に、地方からの政策発信につながったとしています。まさに地方が先進的な取り組みをして国を動かしたというんですが、糸魚川でも先進事例をもっと積極的に研究しながら、また革新的なところに入っていくというステップを踏んでいかなきゃいけないというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく今、議員ご指摘のように先進的な事例を取り込みながらもそれがなかなか発信できない部分で、糸魚川だけでとどまってる部分もあったりもするし、また逆に発展性もとどまっておる部分もあるのかなというのを感じております。我々はやはり先んじて取り組んだり、またいい事例であつたらやはりそれも広めていくような形をつくっていきたいと思いますし、またさらにそれをステップアップしていくことも大事だと捉えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

あと伊那市での定住促進のときに話出てくるんですけど、伊那市は職員のワーキングチームつくって先進事例調べさせて、施策提案させてるんですけど、ほかでやってるのはだめというんですよ。だから、調べるに調べつくして、それ以上のことを提案しなさいという取り組みしてるんですね。調べるだけでも大変だと思います。日常的にやはりやるつもりでもなかなかわからない。我々が調べて外行ってくると、大概、知ってる例は少ないというのが現状ですから。これは相当、覚悟した取り組みが必要だと思いますね。

具体的な事例1つだけ挙げますが、企業が参入した例としてローソンの取り組みがあります。これはマチの健康ステーションという取り組みで、産学官の連携による生活のあらゆる場が健康に結びついているという状況がうかがえるんです。さっきの孤立する人をなくしていくということです。ローソンでテントを張って、健康サービスするんですね。いろんな健康な情報の提供、計測をしたりいろんなことをするという事ですので、また参考にしてもらえればと思います。

次、松本地域健康産業推進協議会が設立したという松本ヘルスラボ構想です。

これはざくっと言うと、年会費を払って会員となった市民に体力測定や血液検査など健康増進のためのサービスを提供して、その健康情報をデータベース化して市民に還元します。それを今度また、健康に役立つ新商品開発を進める企業に対しては、市民会員の聞き取りや会員による試作品検証などの場を提供する。

また、健康情報の提供も個人が特定できないような形で提供していくというようなことをやっている。松本ヘルスラボ構想。ラボというのは、研究室とか実験室とか政策室とかという意味ですよ。だから、壮大な実証実験をやっているということです。松本市全体で健康にかかわる。これはリビングラボ機能、テストフィールド機能、市民の健康という分野というような3つのものが相互に関係しながらぐるぐる回っているということなんですね。ぜひこのところに行くには、やっぱりそれなりの段階を踏んでここへ来たと思うんですけど、ここで今、細かい説明をしてみると、とても時間がないので、勉強してもらってると思いますから、ヘルスラボ構想についてどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

先ほどからご指摘ありますように産官学がやはり連携がとれたすばらしい例だと思っております。その中には、やはり市民の皆様と関係者の健康への意識の、やっぱり高い意識を持つ必要があると思いますので、そのようなことから取り組まなきゃいけないのかなと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

それぞれの機能について、ちょっと説明したいと思ったんですけど時間ないので、市民の健康の高まりにより松本ヘルスラボへの参加者が増加している。それによって企業のマーケティングにさらに多様性が生まれ、開発される製品サービスがよりよいものになって、その製品サービスを市民が購入・利用することで、さらに健康寿命延伸につながるという好循環をつくり出しているんだそうです。ぜひしっかりと勉強して、取り入れられるところをしっかりと取り入れていてもらいたいと思います。

でも、部分的なものをつまんでもだめだと思います。もっと大きな思想を勉強しないとだめですね。

先ほど課長の答弁にありました健康寿命の延伸という考え方について、糸魚川市がどのように捉えて市民に発信し、考え方を定着させようとしているか。さっきの一番最初のところです。高い健康意識にどうつなげていくかということなんですが、現状を見てどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

今後、さらなる高齢化が予測されておりますので、生活習慣病の予防とともに心身機能の維持・向上の取り組み、住みなれた地域で暮らし続けられるということが一番重要なことと考えております。そのためには一次予防、二次予防、三次予防、健康の、その3つ予防をしっかりと市のほうでも市民の方に周知をして取り組んでいただき、また介護予防の観点では、どんな事業においても介護予防、生活習慣病予防ということの意識を持って職員も取り組んでいかなければいけないかなと考えております。これからは、やはり健康づくり、介護予防、そして社会とのつながり、生きがい対策が非常に大事なことかと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

予防医療について一次予防、二次予防をちょっと聞こうかなと思ったんですけど、今、答えてくれたんで、そこ飛ばします。

最後ですが、糸魚川市は高血圧の予防に力点を置いた活動をしていて、5月号の広報いといがわでも1ページ割いていますよね。松本市では、これは口頭での説明だったんですが、糖尿病の予防に力を入れている。これは人工透析受けようになると、お一人で500万、年間かかるんだそうですね。非常に糖尿病というのは、余病を併発するということで、健康上も問題があるということで、糖尿病の予防に相当、力を入れているということだったんですが、糸魚川市ではこのところをもう少しきっちりアピールして取り組んでいくつもりはないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

高血圧については、一般の会社でお勤めの方につきましても協会健保の結果を見ても非常に血圧の占める割合が高いということ、また高齢者も血圧の占める割合が高いということで、糸魚川市では重点項目の中に高血圧予防を入れておりますけれども、確かに糖尿病から来る慢性腎不全という方も結構いらっしゃいまして、人工透析になる方の一番多い原因がやはり糖尿病でございます。ですので、糖尿病予防につきましても引き続き力を入れてまいりたいと思いますし、ことしから健診の中に慢性腎不全がどの程度進行しているかという目安になるものも取り入れておりまして、昨年も教室を開催させていただいたんですが、特にそういった慢性腎不全になる傾向の方には、より重点的に取り組みをしてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

糖尿病に対して何にもやってないとは思ってないんですよ。だけど、もう少し市民に対するアピールの中に糖尿病の問題をやっぱり入れていかなきゃいけないんじゃないかなと思います。高血圧やらなくていいと言ってるんじゃないですよ。ということなんで考えてもらいたい。

それでは、若者が集うまちづくり、定住促進事業について行きます。

一番最初の地域の魅力アップときめ細かな受け入れ体制というところなんですが、4番目ですね。この2点ちょっと共通していて、地域の魅力アップときめ細かな受け入れ体制の施策として、伊那市では、地域の教科書というのと田舎暮らしモデル地域事業というのがあります。

地域の教科書では、伊那市に転入される方が円滑にその地域に溶け込み、安心した生活を営んでいただくために住民相互の助け合いが必要となります。この地域の教科書は、各地域の魅力を知っていただき、自治会への加入を促進するとともに転入される皆様へ地域コミュニティの基本となる自治会のルールや行事、そして負担すべき事柄等の情報を事前に提供して自治会に対する不満の解消や後々のトラブルを防止するために作成したものであるということなんですが、これらにな

っていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

地域の教科書、非常にその中身も少し見させていただいて非常にいいというか、感じております。もともと我々移住ガイドというのはつくってはあったんですけど、それはやはり移住者が集落等入ったときにいろんな、例えば区費とかそういった課題あるよ、そういうものがあるから承知してきてねというようなためにパンフレットとしてつくったものですが、よりきめ細かい対応ということで地域の集落の教科書をつくるというのは、非常にすばらしいなということで、実は既に一部で取り組み始めたんです。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

活用の仕方としては、事前情報の提供のほうがかなり大きいと思うんですね。定住されることが決まってからこれをお示しするのではなくて、情報として公開していて選択の助けにするというところが大事だと思います。

次に、田舎暮らしモデル地域事業ですが、これすばらしいなと思ったんですが、住民が主体となった取り組みで地域を活性化するという目的でつくられています。地域住民、行政、民間事業者との協働で移住者の受け入れ体制を確保するというのを目的にしているということなんですね。例えば閉園した保育園の再開に取り組んだと。例えばどういうふうにしたかということ、ほかから子供を連れてくるのを保護者同士が助け合うということですね。それから、小学校では小規模特認校に指定して、地域外からも児童を確保しているというような取り組みをしているということです。この田舎暮らしモデル地域事業というものをごらんになってどう感じられましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

我々のほうでも移住・定住策いろいろ考えて、新規事業も含め始めておるところですけど、いま一つ地域の要望に応えた移住・定住というような形での施策はいま一つかなというふうを考えております。今後、地方創生の地区懇談会等を進める中で、その先にやはりいろんな地域でどのような移住・定住を望んでいるのかというあたりも含めて地域と一体となって、その中にまた民間企業等も入れられるような仕組みで移住・定住策というのも構築できないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

この事業すごいと思うのは、ただ定住促進策じゃないんですね。もう地域の活性化策を母体にして、取り組んでいるということですね。例えば新山保育園・小学校を考える会というのは、新山定住促進協議会に発展したというような取り組みであります。ぜひとも参考にさせていただきたい。

2番目の独自の支援策ですが、移住・定住の促進に向けた新たな取り組みとしてワーキングチームから提案のあった、先ほど言ったワーキングチームですね、重点プログラムのうち実施効果の高いものについて事業化を進めていくというふうにしています。先ほど言ったように先進地事例をワーキングチームに調べさせて、参考にしながら他市では実施していない施策を条件として提案させたということなんですが、職員の意識改革や能力向上のためにも非常に参考になる姿勢だと思いますがいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

移住・定住策等については、やはり我々の定住促進課のみの考えではなかなかうまくいかないということで、事あるごとに庁内での連携をとっていきたいというふうに考えております。そういった中でいろんなアイデアを出しながら新たな施策とかできればいいかなというふうに思っております。今のところ、ただ、ワーキングチームとかつくて提案をしながらというところまでは、まだ具体的には考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

まだ具体的に考えてないんだったら早くしっかりと考えてもらいたいということでもあります。

広い視野で将来を見据えた戦略的な取り組みですが、ここは糸魚川でもやっています地域おこし協力隊事業、これは都市住民を受け入れ、地域おこし活動や農林業の応援、住民の生活支援などの地域協力活動に従事してもらうということなんですが、ミッションごとに1名の協力隊員を募集委嘱する。ミッションを決めてるんですね。平成26年度から4つのミッションに取り組みましたが、平成28年度は7つのミッションに7名の協力隊員が活躍していると。兼業可能で週26時間勤務というふうな取り組みだそうですが、これは糸魚川市の取り組みと比べていかがですか。糸魚川、進んでるなら進んでると言っていたら結構ですが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

地域おこし協力隊につきましては、糸魚川市は平成27年度、昨年からようやく1年になったところということで、いろいろとやっている中でやはり協力隊の活動はどういうふうにやってもらえばいいかとか、ようやく何かイメージ的なものがつかめてきたかなというふうに感じております。やはりこう見ますと、伊那市、我々より先に取り組んでおりますし、全体的に見ても長野県、隣の小谷村あたりも非常に先進的な取り組みをされておるということで、我々そういったところもまた今後、視察研修とか交流会をさせていただいて、勉強して行って、いい制度の利用をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

最後、視認性と即時性に富んだ効果的な情報発信ですが、伊那市はさまざまな情報発信してます。オウンドメディア、所有するメディア、アードメディア、共有するメディア、ペイドメディア、購入するメディアと分けてしっかり整理しながらイーナ・ムービーズを初めとして、JOIN、移住・交流促進推進機構でのポータルサイト、それから全国移住ナビ、これは総務省のポータルサイトですね。あらゆるところを使いながら情報発信を上手にやっています。ぜひとも糸魚川も情報発信のあらゆるツールを研究して、そんなに費用かかるもんじゃないと思います。イーナ・ムービーズは、相当かけたみたいですけど、それ以外はそうでもないと思いますので、取り組んでもらいたいと思いますがどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

やはり定住・移住を進めていく上で、ターゲットとそこへのアプローチということが非常に重要だというふうに感じております。今ほど議員からお話がありましたとおり、やはりアプローチの仕方にも幾つか、今おっしゃった3つがあると。そうするといろんなマスメディアの使い方、そこをどういうふうにするか、誰をターゲットにするのかというのは非常に重要だなというふうに考えております。少々ペイドメディアのほうは、費用がかかるかなというふうに感じておりますが、それを上手に初期投資にさえ使えれば、後はオウンドメディア、アードメディアあたりがうまく循環していい情報発信ができるんじゃないか、やはり糸魚川が魅力的だよと、住んでみるとおもしろいよというのを伝えるということが重要かなと思っておりますので、今後、そのあたりも頑張っていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

最後に、地域の魅力づくりにおけるチーム系魚川の役割は大変重要である。ぜひともあらゆる検討をしながらチーム系魚川に活躍していただきたいとお願いをしまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を3時30分とします。

午後3時16分 休憩

午後3時30分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

1つ目は、夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくりについて。

人口2万5,000人の島根県江津市、山陰地方の小さな都市が近年注目を集めています。そのきっかけとなったのが2010年度から開催しているビジネスプランコンテスト、UIターン者などの創業支援をやったもので受賞者が地域資源を活用した事業を立ち上げるとともに地域の新たな息吹を吹き込み、よい循環が生まれています。企業誘致にも限界がある。だったら若者にも魅力ある働く場をつくり出す人材誘致を考え、市では地域資源を生かしたビジネスによって地域課題の解決につなげていくビジコンの開催を検討。東京の起業支援NPOのアドバイスなども得ながら仕組みをつくっていました。1回目は全国から25件、2回目は23件などの応募があり、今では商店街に、この数年で20以上の店舗が開業するなど新しい風が吹き込んでいます。ビジコンをきっかけに起きた化学反応がこれからまちをどう変えていくのかが注目しているとありました。

そこで、系魚川市全体を考えた場合、若者と女性が輝く系魚川にするために以下項目により伺います。

- (1) ビジネスプラン及び地域活性化プランコンテストの系魚川開催について伺います。
- (2) 若者総合政策の策定及び系魚川若者会議の方向性について伺います。
- (3) 系魚川留学・孫留学・孫ターン及び里親制度の確立について伺います。
- (4) プロジェクトマネージャーの誘致、派遣、全国公募、移住計画について伺います。
- (5) ジオサイトプラス芸術アートによる地域振興策及び子どもゆめ基金の創設について伺います。